

科目名	学年	単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
国語Ⅱ(漢文) : Japanese II	2ESC	1	50分×30回	履修	講義・通年	—
教員名	畑村 学 : HATAMURA Manabu					
授業概要	教科書に掲載の漢文を中心に、1年間を通じて漢文を読む。 漢文教材を読むことを第一の目的としながら、コミュニケーションスキルである「話す力」「聴く力」「書く力」「読む力」及び「図解力」の基本的習得も目指す。 授業ではレポート課題をほぼ毎回出す。課題をこなしていくことで到達目標の定着をはかる。					
到達目標			評価方法			
(1) 基本的な漢文の文法が理解できる。漢語の語彙を増やし、現代日本語の表現に応用できる。 (2) 作品を読解・分析することで、漢文作品を鑑賞する力が身に付く。 (3) 基本的な「話す力」「聴く力」「書く力」「読む力」及び「図解力」といったコミュニケーションスキルが身に付く。			評価方法は、 ①定期試験(中間・期末試験)、②レポート・提出物・発表により評価する。 各評価は、 ①定期試験60%、②レポート等40%とし、4回の評価の平均を学年末の成績とする。			
学習・教育目標		G①	JABEE基準1(1)			
回数	項目	内容	回数	項目	内容	
第1	ガイダンス	国語の授業概要・到達目標・成績評価方法等をシラバスを中心に説明し、一年間の授業内容を理解する。	第16	漢文とプレゼンテーション①		
第2	漢詩の読解と図解①	教科書掲載の中国・日本の漢詩を読解する。 具体的には、以下の漢詩を扱う予定である。	第17	漢文とプレゼンテーション②	漢詩や思想教材のなかから、個人やグループで担当する箇所を1つ決め、それを調べてプレゼンテーションを行う。具体的な作業としては、下記の通りである。	
第3	漢詩の読解と図解②		第18	漢文とプレゼンテーション③	○各自・各グループで担当する漢文・漢詩を調査する。調査は所定のフォーマットに従って記録する。	
第4	漢詩の読解と図解③	○李白「独坐敬亭山」 ○劉禹錫「秋風引」 ○菅原道真「不出門」 ○陶潜「責子」 ○杜甫「石壕吏」	第19	漢文とプレゼンテーション④	○調査したことについて、図解資料にまとめる。図解資料は、前期の授業を踏まえて作成する。	
第5	漢詩の読解と図解④		第20	漢文とプレゼンテーション⑤	○図解資料をもとに、プレゼンテーションを行う。	
第6	漢詩の読解と図解⑤	授業では、詩の内容や表現の特徴を踏まえて、詩を図解し、基本的な図解の仕方を理解する。	第21	漢文とプレゼンテーション⑥	○他者・他グループのプレゼンテーションを審査表に基づいて評価する。	
第7	漢詩の読解と図解⑥	また、レポート課題として、身のまわりの事象や比較的短い文章を図解し、図解力を向上させる。	第22	漢文とプレゼンテーション⑦		
第8	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。	第23	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。	
第9	思想教材と意見文①	教科書掲載の思想教材を読解する。 具体的には、以下の文章を扱う予定である。	第24	歴史教材の脚本化①		
第10	思想教材と意見文②	○儒家の思想:「論語」「孟子」 ○道家思想:「老子」「荘子」 ○法家思想:「韓非子」	第25	歴史教材の脚本化②	教科書に掲載される歴史教材を読解し、場面の状況、話の展開、登場人物の心情を理解する。具体的には、下記の教材を扱う予定である。	
第11	思想教材と意見文③		第26	歴史教材の脚本化③	○史話(十八史略、戦国策) ○史記	
第12	思想教材と意見文④	文章に書かれていることを理解した上で、書かれていることに対する「意見文」を、200~400字で書く。例えば、孔子や孟子の考え方に対して、自分は賛成か反対か、賛成であればなぜ賛成なのか、その根拠をいくつかに絞って示しながら、自分の意見を論理的に述べる。また、書かれていることを今の社会に置き換えた場合、どのような状況が当てはまるか、常に現代の問題として考える習慣を身につける。	第27	歴史教材の脚本化④		
第13	思想教材と意見文⑤		第28	歴史教材の脚本化⑤	学習後、教材を翻訳する際に、直訳ではなく、ドラマの脚本や小説を意識して意訳する。出来上がった翻訳を、各自グループやクラスで発表する。	
第14	思想教材と意見文⑥		第29	歴史教材の脚本化⑤		
第15	思想教材と小論文⑦	意見文は、今後習得が必要な「小論文」への橋渡しの役割を担う。	第30	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。 授業評価アンケートを行う。	
自学自習の内容	レポートの完成度や提出状況などで判断する。					
関連科目	国語 I					
教科書	改訂版高等学校:古典・漢文編(第一学習社)					
参考書	『カラー版新国語便覧』第一学習社					
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う					
副担当教員						
備考						